

平成 22 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010-W-05

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 跡津川から濃尾へ: 内陸合同観測の成果と展望英文: From Atotsugawa to Nobi: Results and vision of joint observation around these faults

4. 研究代表者所属・氏名 弘前大学理工学研究科・小菅 正裕

(地震研究所担当教員名) 飯高 隆

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
小菅 正裕	弘前大学大学院理工学研究科・准教授	研究代表者	9月28日・29日	2	有
飯高 隆	東京大学地震研究所・准教授	地震研究所担当教員	9月28日・29日	2	無
勝俣 啓	北海道大学大学院理学研究科・准教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
中島 淳一	東北大学大学院理学研究科・准教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
岩崎 貴哉	東京大学地震研究所・教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	無
上嶋 誠	東京大学地震研究所・准教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	無
加藤 愛太郎	東京大学地震研究所・助教	研究集会講演	9月28日・29日	2	無
津村 紀子	千葉大学理学部地球科学科・助教	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
今西 和俊	独立行政法人産業技術総合研究所・研究員	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
小村 健太郎	独立行政法人防災科学技術研究所・主任研究員	研究集会講演	9月28日・29日	2	無
鷺谷 威	名古屋大学大学院環境学研究科・教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	無
西上 欽也	京都大学防災研究所・教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
飯尾 能久	京都大学防災研究所・教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	有
大見 士朗	京都大学防災研究所・准教授	研究集会講演	9月28日・29日	2	有

松澤 暢	東北大学大学院理学研究科・教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
平田 直	東京大学地震研究所・教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
酒井 慎一	東京大学地震研究所・准教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
山中 佳子	名古屋大学大学院環境学研究科・准教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
寺川 寿子	名古屋大学大学院環境学研究科・助教	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
久保 篤規	高知大学理学部・准教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
松本 聡	九州大学大学院理学研究院・准教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無
松島 健	九州大学大学院理学研究院・准教授	研究集会参加	9月28日・29日	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：内陸地震，跡津川断層，濃尾断層，地震波速度，比抵抗，応力場，不均質性

本研究集会は平成22年9月28日・29日に地震研究所セミナー室において開催した。集会では跡津川合同観測参加者が，跡津川断層系での地震活動，地震波速度構造，応力場，地震波減衰構造，地震波散乱構造，地震波異方性，比抵抗構造，及び地殻活動のモデリング等の成果を発表した。また，跡津川断層を含む内陸地震発生域の地震学的構造についても発表を行った後，合同観測の成果について総合討論を行った。特に，地震波トモグラフィの結果と比抵抗構造の関係について等，異なる種類の観測結果を詳細に比較・検討した。また，歪・応力集中機構と地震活動に関する検討を行い，跡津川合同観測の総括を実施した。これにより，合同観測参加者が観測の成果と課題について認識を共有することができた。また，平成21年度から開始された濃尾地震断層域における合同観測において，解明すべき課題についても議論した。以上のことから，合同観測の移行のために有意義な研究集会であったと考えられる。

7. 研究実績報告

Imanishi, K., Y. Kuwahara, T. Takeda, T. Mizuno, H. Ito, K. Ito, H. Wada, and Y. Haryu, Depth-dependent stress field in and around the Atotsugawa fault, central Japan, deduced from microearthquake focal mechanisms: Evidence for localized aseismic deformation in the downward extension of the fault, *J. Geophys. Res.*, **116**, B01305, doi:10.1029/2010JB007900, 2011. 謝辞への記載：無，ポイント数：3.

Ohzono, M., T. Sagiya, K. Hirahara, M. Hashimoto, A. Takeuchi, Y. Hoso, Y. Wada, K. Onoue, F. Ohya, and R. Doke, Strain accumulation process around the Atotsugawa fault system in the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan, *Geophys. J. Int.*, **184**, 977–990, 2011. 謝辞への記載：無，ポイント数：3.

Katsumata, K., M. Kosuga, H. Katao, and the Japanese University Group of the Joint Seismic Observations at NKTZ, Focal mechanisms and stress field in the Atotsugawa fault area, central Honshu, Japan, *Earth Planets Space*, **62**, 367–380, 2010. 謝辞への記載：無，ポイント数：3.

Nakajima, J., A. Kato, T. Iwasaki, S. Ohmi, T. Okada, T. Takeda, and The Japanese University Group of the Joint Seismic Observations at NKTZ, Deep crustal structure around the Atotsugawa fault system,

central Japan: A weak zone below the seismogenic zone and its role in earthquake generation, *Earth Planets Space*, **62**, 555-566, 2010. 謝辞への記載：無, ポイント数：3.